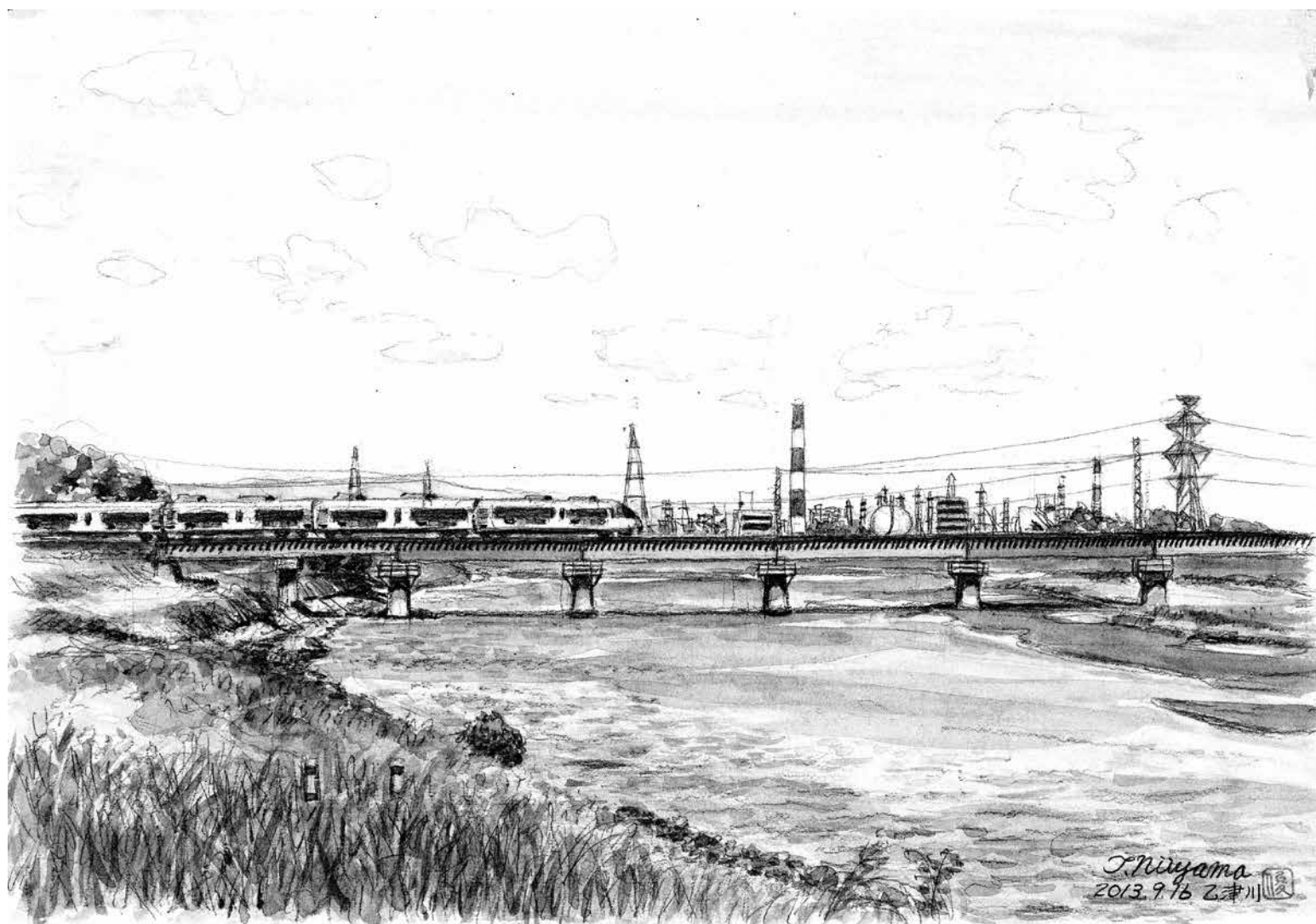


建築士

おおた

秋季号

2017 NO 119



公益社団法人 大分県建築士会

CONTENTS

1. 速報 津久見市における「罹災証明調査」支援活動	大分支部	穴井 輔嘉
2. 28年度公益事業の成果	玖珠支部	尾形 秀則
	佐伯支部	富松 誠
	佐賀関支部	渡邊 豊基
	大分支部	安東 諒
10. 青年委員長会議参加報告	大分県青年委員長	伊藤 憲吾
12. 全建女会議参加報告	青年女性委員共同代表	久野 悦子
14. インフォメーション（支部便り）	佐賀関支部	井上 雅順
	宇佐支部	渡邊 賢一
	別府支部	興田 昌英
	佐伯支部	井上 一則
19. マイベストブック	豊後大野支部	佐藤 勤也
	大分支部	松本ひとみ
20. 我が街の建築士紹介	佐伯支部	高瀬 直紀
	別府支部	三ヶ尻隆浩
	豊後大野支部	伊東 勇治
22. マイワーク	宇佐支部	金田 舞香
23. マーボアの旅先日記	会 長	井上 正文
25. 事務局だより		
26. 講習会案内		



■ 表紙説明 ■

表紙のイラスト

乙津川

別府支部 新山 俊則

津久見市における「罹災証明調査」支援活動(速報)

大分支部 穴井 輔嘉

○9月17日の台風18号豪雨により津久見市全域で甚大な被害が発生し、9月26日時点の調査で住家被害として全壊1世帯、床上浸水972世帯、床下浸水727世帯、その他店舗等の被害が184世帯確認されました。こういった中で、津久見市役所税務課より建築士会津久見支部に対して罹災証明書の交付のための被害認定調査を9月28日から開始するにあたり調査活動支援の要請がありました。津久見支部及び本部防災委員会としては急遽27日に県南3支部会員向けに罹災証明のための被害認定調査について研修会を行い、会場の津久見市民会館に14人が参加しました。金只昌平津久見支部長、山本伸二防災委員会委員長、津久見市古手川芳也税務課長、防災委員会渡邊豊基副委員長、藤原直樹副委員長から調査概要の説明、具体的な調査実務等についての説明を受け、翌日28日からの調査にそなえました。臼杵、佐伯、そして津久見支部会員を中心に大分支部、防災委員会委員を加えた2人～3人/日の支援体制を構築しました。津久見市は調査を10月18日までに終了することを目指していますが、その後、さらに調査申請が増えており1600件相当になっている模様です。

○調査チームは市役所職員がリーダーとなり、補助員2人の計3人でチームを組んでいます。補助員は建築士会のほか県職員、他の市町村職員、土地家屋調査士会、津久見市職員が支援し全4～6チームで毎日市内を廻っています。基本は罹災証明書の交付申請をした被災者が対象となっています。アポ無し訪問のため不在の場合は後日対応となります。調査の様式は日田市の北部豪雨災害時の方式を参考に内閣府のマニュアルをアレンジして1次調査ほどの簡易ではなく2次調査ほどの詳細ではないレベル(1.5次レベル?)でした。

○リーダーの津久見市税務課職員が被災者対応、聞き取り、調査票の判定等を行います。士会員は2人が補助員として支援しています。一人が写真撮影役で(調査票、外観、外部浸水高さ計測写真、内部被災浸水高さ計測写真、各被災箇所の写真を数多く)、もう一人は浸水箇所、破損箇所等を調べ、写真撮影のための浸水高さの計測(メジャーあて)の役割をお願いされました。さらに建築士として技術的なアドバイスを求められた場合や被災者からの相談に対して臨機応変に対応することになります。10月15日までに延べ42人程度の支援者派遣になる予定です。なお、津久見支部会員は津久見市社会福祉協議会からの要請で被災者の建築・住宅関連相談にも対応しています。



外部の浸水深を計測しています。(10/1 臼杵支部 板井祐輔会員、合澤浩司会員)

玖珠支部 尾形秀則

豊後森機関庫の窓枠製作と報告会

豊後森機関庫の保存について住民運動がおこったのが平成13年です。署名運動等を経て平成19年に玖珠町の所有となり、平成24年には念願の登録有形文化財に登録されました。平成21年に機関庫を保存するには活用が不可欠という事で、広く住民を含めた「豊後森機関庫活用推進協議会」が設立され、ボランティアでの清掃、草刈等行いながら、機関庫グッズ製作、ガイド育成等住民運動を続けてきました。



【意見交換会】

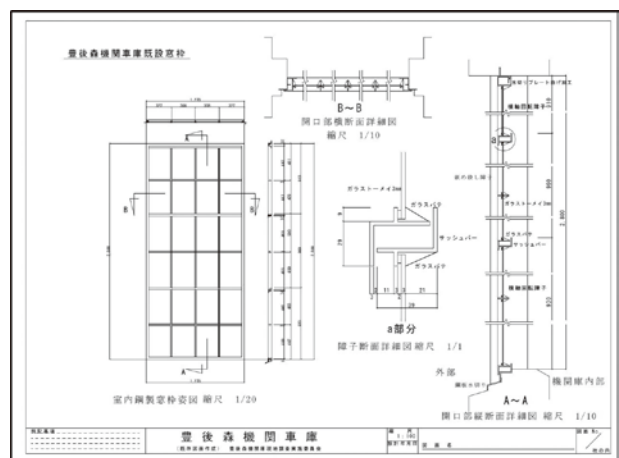
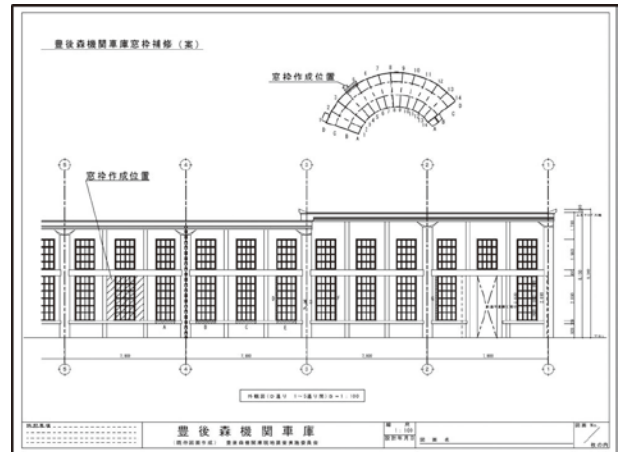


【展示報告会】

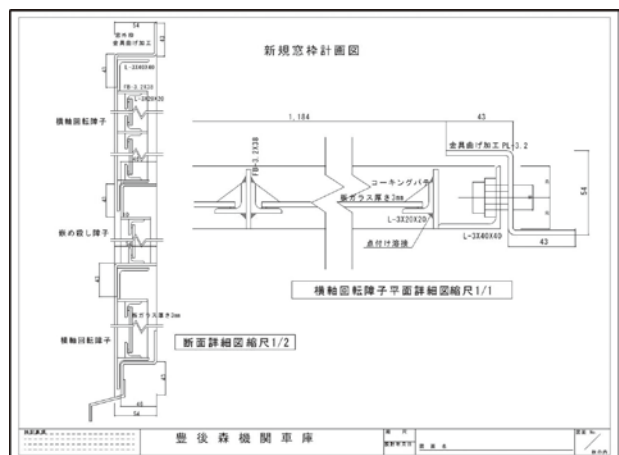
建築士会玖珠支部は機関庫の実測、劣化調査、保存と活用の講演会等、その職能を活かした活動をしてきましたが、平成29年度の公益事業として機関庫の窓枠の製作と報告会を開催しました。窓枠は当時の窓枠を修理しガラスを入れたものと、現在流通

している鉄骨部材で当時の姿を再現したものの2通りの方法を製作し、展示と意見交換を行いました。

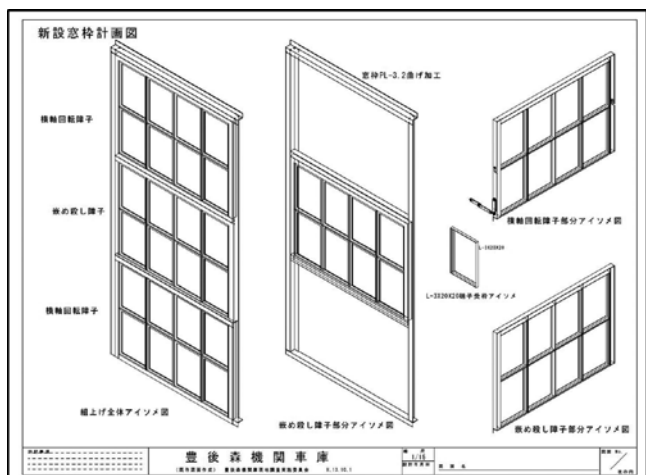
公益社団法人 大分県建築士会玖珠支部は、「建築士から見たまちづくり」をテーマに建築士の職能を活かした地域貢献活動を行っています。豊後森機関庫は今や町のシンボリック的存在であり、貴重な遺産でもあります。しかし劣化が進んでおり将来が心配です。窓枠においても劣化とともにコンクリートに雨水が浸透し鉄筋の腐食が心配されます。現状のおもむきを壊さずに修理、復元が可能か検証しました。既設窓枠を修理したもの、既設部材を現在製造されている部材で復元にも挑戦しました。製作にあたり現場実測し、以下の図面製作を行いました。



【豊後森機関庫既設窓枠】



【新規窓枠加工寸法図】



【新規窓枠加工全体図】

機関庫は登録有形文化財として登録はされていますが、これまでに建築物の保存の為になされたことは平成23年度の屋上防水工事と平成25年度の耐震診断を町役場が実施しているのみです。機関庫については、いまのまま手を付けずに廃墟状態がいいという意見、いや保存するには補修等手を入れることが不可欠だという意見等様々ですが、建築の専門家としてみても日々劣化が進んでいます。窓についても割れたガラスや劣化した窓回りから雨水が侵入し、鉄筋の爆裂もみられます。



【下塗り錆止め塗料】



【錆止め塗りの上にコーキング打】



【既存窓枠に基づいて制作】



【上塗り色は現況に近い錆色】



【既存窓枠どおりの寸法で仕上】



【ガラス取付完了】

今回の窓枠製作と展示、意見交換をとおしての目的とねらいは、このまま放置され危険建物として解体される事にならないように適宜修理が必要であることを提案しています。なかでも施設見学上の問題となっている窓枠ガラスの落下対策が必要であり、その一方法を提案したものです。建築士会の提案について関係者の議論が進むことで、適切な保存・活用が進展することを願っています。



【錆止め塗料塗り】



【修理前のボイラー部分】



【修理終了後に三分割し機関庫に到着】



【修理前の状況】



【修理完了：29612のプレートを取付後の志免町長と玖珠町長との交流の誓い合い】



【修理前の状況】

佐伯支部 富松 誠

木工教室 in 山っこクラブ

第2回木工ワークショップは本匠の山っこクラブの子ども達とティッシュ箱作りを行いました。

まず、建築士会で小学生に作れる作品はどんな物があるのかを話し合いました。今回は、前回の親子作業と違い、子ども一人での作業を基本として作る内容にしなければいけませんでした。

話し合いの中で「本棚」「椅子」「割り箸で作る作品」「古材を使った作品」と色々な意見が出ましたがしっくりこない中、公務員建築士河野君が「ティッシュ箱はどうですか？」との意見に皆が飛びつきました。このティッシュ箱の作製には「切る・打つ・削る」と大工仕事に必要な工程が含まれている事、作品が日常的に使われ、きちんと残るという事が決め手になりました。



1ヶ月半の準備期間を経て1月の中旬に本匠中学校の技術室で山っこクラブ24名と佐伯支部建築士会会員9名が参加し作業を行いました。彼等とは折り紙建築で一度、会っていたのでお互いに久しぶりといった感じでした。

まず、青年部長の挨拶のあとに私が教壇に立ち作業内容の説明をしました。しかし、人前で喋るのが苦手なため少々しどろもどろな説明になってしまい、きちんと内容が伝わったのか内心不安でしたが、子ども達の作業は順調に進み安心しました。

作業内容は始めに鋸で板を切り揃えて、真鍮釘を金槌で板に打ちつけて固定をし、蓋となる板にジグソーで穴を開ける、ペーパーで削る、最後に色を付ける5工程です。



どの作業も子ども達には難しく大変な作業ですが、その中でも「蓋に穴を開ける」作業は、ドリルで穴をあけ、ジグソーで穴を切り開けるといった5工程の中で唯一機械を使う作業だった為、子ども達にできるか心配でした。しかし、その心配をよそに子ども達はゆっくりでしたが大胆に好きな形に穴を開けていました。(もちろん、怪我をしない様に会員のサポート付きでしたが)

作業は予定通りお昼前に全員が作り終わることができました。作り終えた子ども達は自分の作品に満足の様子で喜んでくれました。その様子を見て木工ワークショップの成功に自分も嬉しくなりました。

当日の朝は小雨が降り肌寒かったのですが子ども達の作業に取り組む一生懸命な姿に帰る頃には体も心もポカポカになりました。後日、頂いた手紙がまた嬉しかったです。

第2回木工ワークショップ大成功です。



平成28年度 公益事業の成果

佐賀関支部

佐賀関支部 渡邊豊基

本年度の公益事業は、テーマを“伊予街道と旧軽便鉄道敷を歩きながら考える”～幕末の志士が駆け抜けた佐賀関と歴史的建築物を訪ねて～と題して、2月26日に開催しました。

当日は、会員や一般の方を含め30人が参加し、坂本竜馬や勝海舟が往還した「伊予街道」と近代産業を支えた「日鉱軽便鉄道敷」をトレッキングしながら、沿道の歴史的建造物や史跡を巡り、まちづくりに寄与する活動としました。

先ずは、市民センターに集合しガイダンスをしていたところ、別府支部の興田君から連絡があり、「自転車で馳せ参じているが遅れる」とのこと。これには、参加者一同で“えっ、別府からチャリ～” 嘩然！

程なく、到着し一同でトレッキングスタート！

国道217を横断し、いざ「伊予街道」へ！途中、久原鉱山跡や日鉱社宅跡地を見ながら「有屋峠」を超え、古宮地区に進みます。ここには、大正9年頃に建築された陸軍の豊予要塞司令部の官舎が残存しており、これを調査した大分支部の久野氏より説明をしてもらいました。

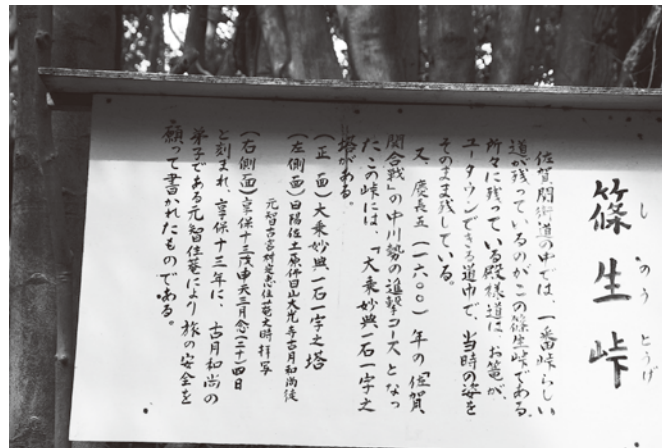


さて、これから山道に分け入ることとなり、1列縦隊でテンポよく歩いていたら、次第に勾配もきつくなってきたあたりから、一部の参加者が遅れ気味に！私のガイドの区間ではないため最後尾を確認したところ、なんと関支部のスタッフじゃねーか？参加者をサポートするところか、足手まといになっている！一喝して先頭に復帰！

虎御前峠の頂上では、ボラガイドの説明を受け、一同感嘆！一休憩し集合写真をパチリ！



いよいよ、本日一番の難所で標高160mの「篠生峠」に進みます。街道は一部区間で土砂崩れしており、急峻な迂回路を進みます。本道に戻っても倒木や転石がごろごろしており、慎重に歩を進め、やっとのことで篠生峠に到着。ここで、ガイドの説明を受けました。



ここからは、一気に下りますが、ここでもスタッフが遅れ気味に！なんと足が攣りだしたとのこと。日ごろからのトレーニングが足りないので、一喝！



小志生木のふもとに到着し、薬研彫の道標を説明し、さらに西へ進みます。



ここからは、平坦な道になり一行の歩は、どんどん進みます。途中、椿の群生があり、参加した子供さんに、花の蜜を吸わせたところ、「おいちゃん、美味しいっ！」て喜ばれました。

昼食会場の、道の駅佐賀関まで、あと1km！叱咤激励し、ようやく到着！

目当ての“海鮮丼とクロメ汁”を注文したところ、他のお客さんが多く、注文を受けられないとのこと！…これには一同驚愕！…

しょうがなく、クロメたこ焼きを注文し、空腹を凌ぎました。

ここで、一部の参加者はリタイヤしましたが、一行は気を取り直し、“旧日鉱軽便鉄道”をトレッキング再開。

軽便鉄道の説明をしたのち、参加者から大分県には、軽便鉄道が多くあり、中津・国東・大分・別府にもあったとのこと。話が盛り上がり、県内の軽便鉄道トレッキングをやろう。と勢いが増しました。(笑)

海岸沿いの鉄道敷きをひたすら歩を進めます。途中、駅があった場所で、当時の写真と現代の風景を重ね合わせて、時代の流れを感じ取りました。



また、磯場のみえる場所では、太公望の喜びそうなポイントの説明や海藻の種類などを説明しました。

これには、参加者もグイグイ釣られ、「磯釣り大会もしたいな〜。」と新たな注文も！

ほんとっ、遊び足りない“おいさん”は困ったものです。

古宮海岸を過ぎたあたりから、日鉱佐賀関製錬所が一望できるポイントがあり、ここで記念撮影！パチリ…



市民センターに無事到着！全行程歩行距離は約13.5kmを完歩しました。

閉会式では、参加者から「道の駅佐賀関以西の街道を歩きたい！」「高島の戦争遺跡を見たい」「クロメを採りたい。食べたい。」との建築に関係ない要請？も多々あり、今後の事業にて検討することを約束（汗）して本事業を終了しました。

参加されたみなさん、大変お疲れ様でした。
※追伸、来年は、事業の方向性を見定めるため、一旦休止します。充電したのちパワーアップして復活しますので乞うご期待！

大分支部 安 東 諒

去る8月10日(休)に青年部情報班の主催で、活動の一環として建築士と建設業従事者向けに芹川ダムバックヤード見学ツアーを開催しました。

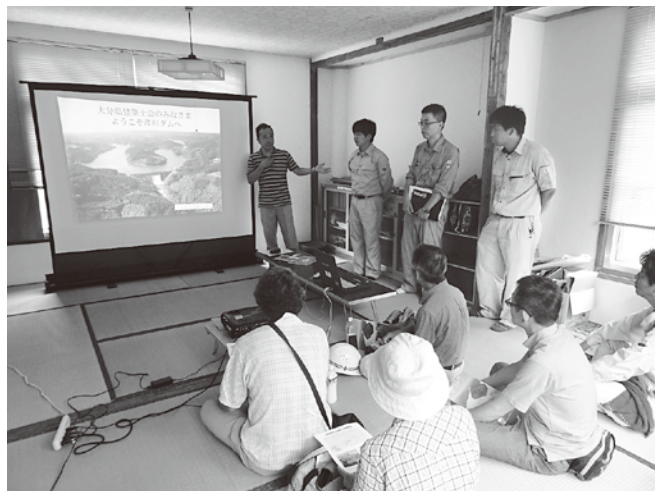


【芹川ダムの外観】

情報班の活動会議で企画案に「建築士会員向けの施設見学会を開いてはどうだろうか」との声があがりました。実際、施設見学は建築士等の試験対策で受験者向けの開催や、「集い」などで開催されていました。受験者向けの施設見学会に私自身もスタッフとして参加したとき、施設見学は為になることがたくさんありました。このような施設見学の有用性を考え、今回情報班の活動として施設見学会を開くことに決定しました。建築士及び建設業従事者の知識向上を目的とするとともに、見学ツアーでしか見ることのできないところを見学することで、施設の特長構造や施設の果たす役割を肌身で感じたいという主旨で大分県企業局ダム管理部にダム見学の申し込みをしたところ、快諾していただき今回の開催となりました。

芹川ダムは、高さ52.0m 堤頂長193.0m 体積122,426m³の重力式ダムで、大分県政史上2番目の河川総合開発事業の一環として築造された総貯水量2,750万m³、水力発電、洪水調節及び農業用水として活用する多目的ダムです。戦後における国土復興計画に伴う電力事情の緩和、洪水被害の軽減及び農業用水確保による食料増産を目的として、昭和28年に着工、昭和31年3月に完成しました。

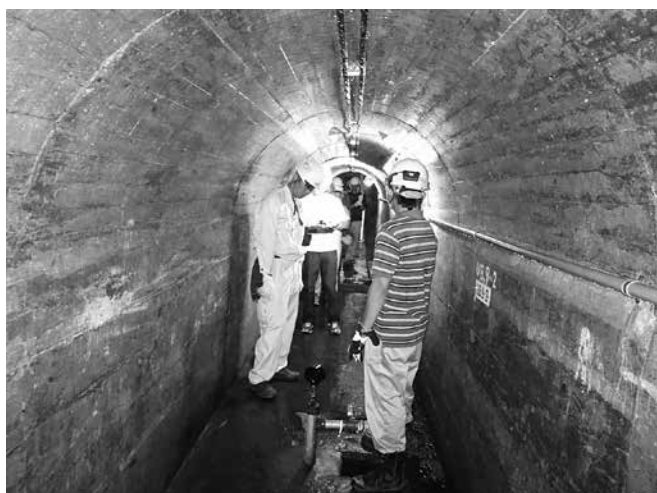
施設職員の仕事は、大雨時等にダムからの放流、堆砂量測定、水質調査、ダム湖の清掃（流木除去等）などがあり、大雨の際にはダムから放流の管理を10日間程度、連続して昼夜行うため緊張の連続で苦勞しているそうです。止水板巻き上げ装置等の維持管理及び修繕に関しては、建築分野の施設管理にも繋ることだと実感し、管理するということの重要性を痛感いたしました。



【ダムの歴史について学ぶ】



【止水板巻き上げ装置見学の様子】



【監査廊見学の様子】

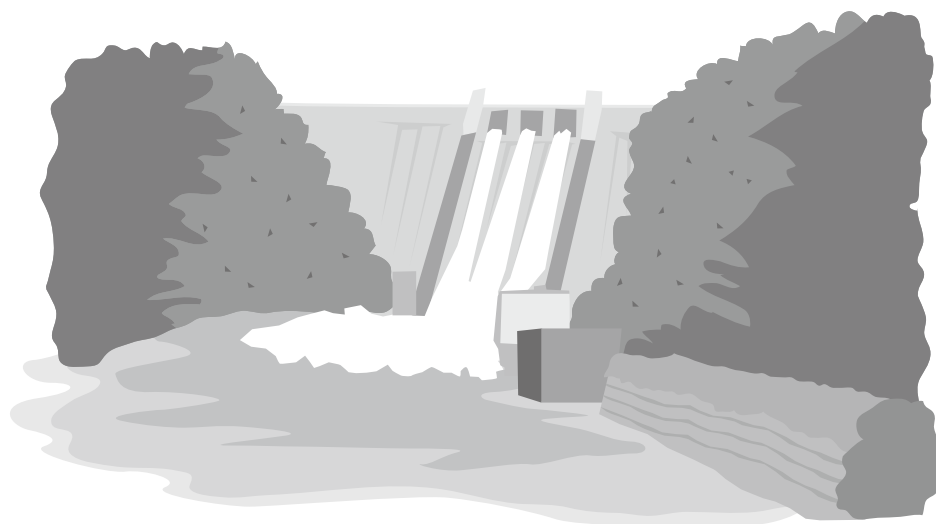
施設見学は、ダム歴史についての座学（ビデオ）に始まり、ダム湖内に設置している循環ポンプまでのボート見学、重力式ダム監査廊及び止水板巻き上げ装置などの見学をさせていただきました。ダム監査廊には普段企業局職員の方しか見ることのできない「奇跡の花」と呼ばれているエフロレッセンスがあり、今回の見学の目玉にもなっている貴重なものを見ることができました。併せて、普段は見ることのできない裏奥まで見学させていただいたことで参加者からは驚きの声や感嘆の声が聞かれました。帰りには見学記念のダムカードも頂きました。これを皮切りに「県内ダムカード制覇を目指したダム巡り！」の話にもなりました。



【奇跡の花】

今回は平日での開催ということと募集の告知期間が短かったということで少々不安を抱いておりましたが、建築士会員のみでなく夏休みということでご家族の方にも参加していただき感謝しております。また、みなさんの様子や喜んでいただいた声を聞くことができ、主催者としてホッとすると同時に大変うれしく思っております。

見学会を事故なく無事に終えることができたのは事務局をはじめ、企業局、スタッフメンバーの力添えがあったものと一重に感謝しております。青年部情報班の活動として、第2回ダム見学や大型施設見学を立案企画し、大分県建築士及び従事者の知識向上に役立てるようなツアーを考えて活動して参りたいと思います。



平成28年度 全国青年委員長会議

目からウロコ！建築士の職能を活かす活動

大分県青年委員長 伊藤 憲 吾

去る3月4日から5日にかけて全国青年委員長会議に参加してきました。全国青年委員長会議とは年に一度開催される会議です。各県の青年委員長（または青年委員長候補）が集まり会議されます。私自身は二度目の参加となります。議論の多くは建築士会としての課題に向き合うことが主となりますが、全国の青年委員長たちとの交流にも意味があるように思います。各地域の活動などを聞くことで、地元フィードバックすることも可能です。記憶をさかのぼりながらここに記してフィードバックにつなげたいと思います。おぼろげな記憶ですが…（9/18現在）

今回は東京港区にある機械工具会館というところでありました。東京タワーの見える場所でした。九州ブロックの青年委員長たちと行動をしていましたが、九州人は東京タワーを見ると盛り上がりますね（笑）



さて会議のプログラムですが、

第一部「建築士会・青年委員会をよりよくするには」

まず、今回は事前にアンケートがとられました。建築士会に入会した理由や魅力など、おおむね建築

士会に対する存在意義を明確にするためのものだったように思います。ディスカッション前に存在定義を共有するのはとても大切なことだと思います。しかし、少し誘導的なアンケートでもあったので、少々答えにくいものもありました。

そのアンケート結果に基づき、第一部よりワークショップのディスカッションが始まりました。ワークショップは「ワールドカフェ方式」を採用しています。簡単に言えば、カフェで話すように気軽にディスカッションしようということなのですが、なぜか青年委員長の皆さんはスーツでバシッとしてくるので、いまいちくだけません。けして、私がラフな格好をしている言い訳ではなく、話しやすい雰囲気づくりというのはルールによりできるものはないと思うのです。

第一部は九州ブロックの皆さんとのワークショップでしたので、お互いに知っています。そのため、よりよくする為の方法は具体性を持ったものとなりました。宮崎県や鹿児島県では、建築士会を事務所登録しバス停などの業務を委託されているようです。委託業務がそのまま活動になるので、活動資金の問題がクリアされます。より活動的になるための良策だと思いました。



第二部「目からウロコ！建築士の職能を活かす活動」

第二部は建築士の職能を活かした他の活動をしている人はいないか？という内容でしたが、ここは議論がうまく展開できないようでした。おそらくは他団体との連携が少ないので、情報が集まってきていないのだと思われます。私個人の活動として、震災復興で行ったイベントの監修デザインなどの話をしました。建築士の職能は「構成力」にあると感じます。複数の事柄を一つの形としてまとめる力が長けているのではないかと？そういう可能性を探そうという方向にまとまりました。



第三部「これからの活動目標」

一夜明け（懇親会で大いに盛り上がった余韻を残し）、翌日の午前中より第三部が開催されました。

第三部は各テーブルを回りながらワークショップをする方式です。いろんなエリアの青年委員長とテーブルを囲みながら、テーマについてディスカッションします。

ここでわかるのは、おおむね同じような問題を抱えていることです。ともすれば、平均的な共通の回答を生み出しがちなので、この方法はリスクがあると思いましたが、そんな懸念とは逆に、より可能性を広げるための方法となりました。

私のテーブルでは以下のような具体的案を設けました。

提案「たてもの教室を開催しよう」

【課題】

- ・他団体との連携をいかに行うか？
- ・防災教育をいかにすすめるか？
- ・青年委員会のメリットをいかに生かせるか？

【可能性】

- ・青年委員の年齢制限をメリットとすれば、子育て世代やPTAとの連携が生み出せないだろうか？

- ・防災教育は子供のうちからするべきであるし、建築教育に関しては義務教育に多く含まれていない。（家庭科の一部程度）

【問題点】

- ・国土交通省と教育庁の縦割り行政に問題がないか？
- ・いかに地方の教育機関との連携を保てるか？

このような議論が展開され上記のような提案がなされました。最終的に全体へ向けたプレゼンをさせてもらいましたが、良い評価をいただいたのではないかと思います。

青年委員長会議では非常に考えることができる場を与えられます。問題はこれを実行に移せるかどうかだと思います。今回、提案した「たてもの教室」は私自身がいつかやりたいと思っていたことでもあるので、何らかの形で開催したいと思います。その時は皆様のご協力を何卒お願い申し上げます。

これからの建築は地域で育て、地域で活かすものではないか？そのための建築士会の活動が必要ではないか？そのように考える日々です。

追伸：せっかく東京に行くので建築見学もしてきました。これも楽しみの一つです！



すみだ北斎美術館（設計：妹島和世建築設計事務所）

第27回 全国女性建築士連絡協議会 報告

「未来へつなぐ居住環境づくり」～和の空間を考える～

平成29年7月15日(土)・16日(日) 於：東京都 リ口会議室田町、建築会館ホール (出席者約300名)

青年女性委員 共同代表 久野悦子

前々回まで、大分からの参加者は私一人と寂しい限りでしたが、昨年の奈良、今回の東京と参加者が一人ずつ増え、今回は3人で協議会に参加することが出来ました。

■委員長会議



全国から各県1名の委員長が参加する委員長会議です。

各県ごとに1年間の活動報告が行われました。私は、昨年10月に行われた全国大会大分大会の御礼を兼ねての報告。それと熊本大分の震災後、九州ブロックで行っている活動についての報告を行いました。

■連絡協議会 開会式

○開会式

1日目は、基調講演や、活動発表がされます。開会式は三井所会長の挨拶から始まりました。



○活動報告

・北海道建築士会

「高校住教育講座～はじめての一人暮らし～」

高校の家庭科教育の中で、住環境分野を建築士会から講師を派遣して住教育の出張講座を行うというもの。

北海道では進学・就職に関わらず、殆どの子が高校卒業したら一人暮らしを始めるとのこと。高校では消費生活の分野ではアパートの費用試算などを教えているが、そこに、良い住環境であるかの視点を盛り込んだ教育を行うというのがねらいである。

子供の頃にこのような住環境を意識できるような教育があると、住まいやまちにこだわりと関心を持つことが出来るのではないかと思います。

・宮崎建築士会

「ノベオカノマドハウス」リノベーションプロジェクト

延岡駅周辺整備プロジェクト一連行事、市民活動団体によるワークショップやイベントなどに10年ほど前から携わってきた延岡支部女性委員会が、市民活動団体を支援する“のべおか市民力市場”から、「まちの部室」の設置に伴うリノベーションを一任された。計7回に及ぶ市民参加のDIYリノベーションワークショップで完成させた経緯の報告。

自分たちの居場所は自分たちでつくるという市民参加、完成して1年経った今、市民の交流と活動の場としてにぎわっているとのこと。更にそのワークショップ参加者が今後駅町での活動も続けていきたいということで、サポートグループが結成された。その後もずっと続く「つくり方」を学びました。

○被災地報告

・岩手県建築士会

「かまいし未来のまちプロジェクト」

・宮城県建築士会

「2011東日本大震災以前から、そして以降、女性

会員が参加している活動の報告」

- ・福島県建築士会
「ふくしまの現状」
- ・熊本県建築士会
「熊本地震発生～457日 熊本での活動報告」
- ・佐賀県建築士会
「熊本地震における九州ブロック青年女性協議会の取組み」
- ・鳥取県建築士会
「鳥取県中部地震状況報告」

それぞれの被害、それぞれの事情。

聞いてみなければ分からないこともたくさんあります。

いつも有り難く拝聴しています。

○基調講演

「和の空間を考える - 居住空間にとって美とはなにか -」

講師：早稲田大学名誉教授 中川 武氏

住まい方、住まいの空間において、失われゆく“なつかしさ”と“変容しつつ積層されてきたもの”の意義についてのお話。



○交流会

各県入り乱れ、情報交換というお喋りで盛り上がりました。各ブロック2県の発表で、九州からは大分と鹿児島が発表を行いました。私は、全国大会のお礼と、大分の土会員が貴重な体験をさせて頂いたこと。などを話しました。

○九州ブロック夜の交流会

そして交流会第2弾は、九州ブロック交流会。

福島や京都の方も一緒に大勢で盛り上がりました。



○分科会

2日目は8つのテーマの分科会が行われました。

今年は、「防災への取組み」「地産地消のすまい」「歴史的建造物と建物再生」「環境共生住宅」「自治体連携とまちづくり」「子供と住教育」「高齢社会と住まい」「既存ストックの活用」がありました。私は今回、恐らく協議会では初めてのテーマ「既存ストックの活用」に参加しました。



若い夫婦がビルを購入して、リノベーションを行った事例、事業者が中古住宅の買い取り再販を行った事例。いずれも構造的に難易度が高いものをクリアして、実現したもの。東京谷中の木賃アパート「萩荘」を最小文化複合施設「HAGISO」として蘇らせ、そこから広がるまちびらきの話。色んな既存ストックの活用方法とその意義と新たに生み出されるもの、を考えさせられた分科会でした。

■最後に

次回第27回は平成30年7月28日(土)・29日(日)に高知県に於いて開催されます。全建女は大変勉強になりますし、全国の女性建築士たちと会える楽しい協議会です。

高知へ皆さん一緒に行きましょう！



佐賀関支部活動報告

佐賀関支部 井上 雅 順

毎年開催されている県土木事務所長杯・県南ブロックソフトボール大会。今年は佐賀関支部が幹事支部となっており、準備会議を経て6月25日の大会の日を迎えました。

当日は生憎の雨模様でグラウンドが使えず、隣接する体育館でミニバレー主体の大会となりましたが県南ブロック各支部から約50名ほどの参加をいただき、終始和気あいあいの大会となりました。



幹事支部の渡邊裕一主将の選手宣誓のあと、簡単なルール確認とラジオ体操をして試合開始です。

第一試合から白熱した戦いになり、爆笑と叫び声が体育館に響き渡ります。



劣勢になるとタイム&作戦会議を繰り返す頭脳派の臼杵支部、ファインプレー&珍プレーの竹田支部などそれぞれにチームの特色があり、観戦しているだけでも楽しめました。もちろんビールもすすみます。

ソフトボールが中止になり、急にミニバレーに変更した事で皆さんのモチベーションがどうなる事が心配でしたが、意外にこちらのほうも皆さんに好評で「こっちの方が体力的にちょうど良い」と言う人や「チーム力が拮抗していて熱戦になるので面白い」といった声がチラホラ聞かれました。アトラクションの輪投げとスカットボールでは各支部から代表を二人ほど選出してもらって争いましたが、こちらはバレーの順位とは完全に逆の順位となって面白い結果になりました。



優勝は津久見・佐伯・豊後大野の合同チーム、2位竹田、3位佐賀関、4位臼杵となりました。(アトラクションはこの逆)

閉会式では県土木事務所の小野和彦氏が大会の総括と優勝旗授与をしました。



この後、場所を町内の早吸日女神社の参集殿に移動し懇親会。じゃんけん大会の後、来年の幹事の臼杵支部にバトンタッチしお開きとなりました。



宇佐市平和ミュージアム構想

宇佐支部 渡 邊 賢 一

先般の、建築士の集い in 久留米の第一分科会の地域実践活動として、当支部青年委員長光井氏が報告した「宇佐市平和ミュージアム構想」について紹介します。



宇佐市が平成32年に開館を目指す平和ミュージアムの建設について、エンあって宇佐町並み修景隊は海軍跡地の整備（既完成・宇佐空の郷）や戦争遺構群の整備などにかかわることになりました。ここにある「エン」とは、梶田支部長がHMを取得していたことであり、「宇佐町並み修景隊」は宇佐支部会員の有志による建築や歴史を楽しく勉強する(?) 集まりです。様々な職種が在籍していて、意匠を得意とする人から構造を専門とする人、家屋調査士や設備屋に瓦屋、建具屋など…何でも御座れなのだ。

さて、今回紹介の平和ミュージアムでは、宇佐が戦時下にどのような状況にあったか、を伝える資料館となります。

宇佐には海軍の航空隊があり、ここに全国から集められた若き戦士たちが戦地に赴く準備をするところでした。軍資の乏しい中集められた戦闘機が待機する場所。よって敵軍から標的となり戦禍を被ることになったのです。



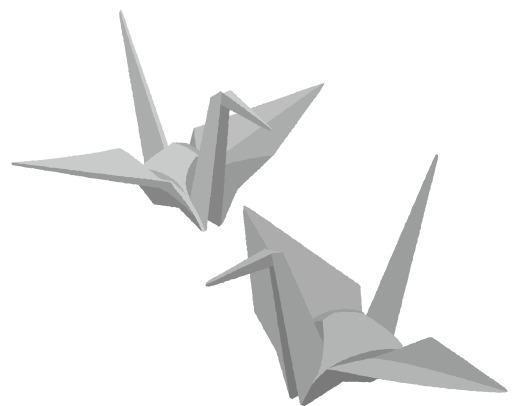
終戦から年月が経ち、戦争のもたらした悲しい歴史を繰り返さないために、語り継いでいくことの重要性を再認識して、立ち上げられた宇佐市平和ミュージアム構想。



完成の際には是非来館ください。

また周辺は総長10kmにもおよぶ遺構巡りが整備されます。

詳しくは宇佐市HPにて！





建築士会サイクリング部活動報告 「新春チャリ詣 両子寺へGO」

別府支部 興田昌英

平成29年1月29日(日)に建築士会サイクリングが開催されました。

まずは私の自己紹介からさせていただきますと、別府支部の興田昌英と申します。

杵築市役所勤務、杵築市山香町出身で今も在住、独身でございます。

この一年、自転車がほしい病にかかってしまい、気づいたときにはコルナゴのシクロクロスバイクを新車で買い、シクロクロスとロードバイクの違いが知りたいとデローサのロードバイクを中古で買っていました。

今回のサイクリングの報告ですが、コースは杵築市文化体育館をスタートし、国道213号→安岐町→両子寺→蕎麦屋（両子河原座）→国東町→国道213号→杵築市文化体育館ゴールの全行程約80kmでした。

国東半島はいろんなサイクリングコースを選択することができますが、今回のコースはみなさんいわく、山では無く丘みたいなものだという楽々なコースでした。

参加者は佐賀関支部の渡邊さん、大分支部の佐藤富士雄さん、臼杵支部の高橋さん、三重野さん親子、別府支部の寺林さん、興田の7名でした。

今回の開催は杵築、国東を巡るということで参加しましたが、実のところ、平成28年4月に今回のイベントが開催される予定で、私も参加したいと思っていたところ、熊本の震災がおり延期され、いつ開催されるのだろうと心待ちにしていました。



自転車を買って以来、一人で国東半島を走っていましたが、今回はみんなと走るという楽しみを味わいました（初体験）。どんなところが違うのかというと

1. 多少きつくても、風よけになってくれるし、頑張れる。
2. 一人よりスピードが出るので、スピード感を味わえるのと、時間を短縮できる。
3. 自転車の世界はわからないことだらけなので、いろいろ教えてもらえる。
4. 昼ごはんをみんなで食べると本当に旨い。
5. 次回のためにトレーニングをしたくなる。



6. 走行後の温泉はチョー気持ちいい！
温泉に入っても、自転車談義で話が尽きない！

今回のサイクリングはチャリ詣ということで両子寺にて鐘をつき、表向きはツール・ド・国東に初出場するぞと（本当は結婚するぞ）と願をかけましたので、ツール・ド・国東にむけてトレーニングを頑張ろうと思います。



みなさんも思い切ってチャリを買ってサイクリングに参加されてはどうでしょう？

風を切って走るの最高ですよ！

最後に、世話人からの伝言ですが、次回開催は4月上旬の予定だそうで、コースは「ツール・ド・国東」を想定して、山岳コースを選択するようです。

自転車愛好家のみなさまは、是非参加してください。

アレーアレー（笑）



(両子寺前にて)





2017職業人講和／中学校編

佐伯支部 井上一則

支部長よりの突然一本の電話。「某中学校より、建築士会に職業人講和の依頼があったんだけど、貴方が適任者と判断して指名をさせてもらうけど、受けてくれるかなあ」との事であった。過去にも数回、市内の高校と中学校から直接打診があり、受けた経験から「私で良ければ」と引き受ける事になってしまったが、果たして大丈夫か？…と言うのも、講和迄7日あまりと言う準備期間の短さだったからである。

そもそも過去の講和を引き受けてきた理由は、建築士であり建築家と言う職業を知って貰う為であり、それにはやはりその現場に出向き生の声で語らねばとの思いだった。

一講和30分プラス10分の質疑応答を、二講和の予定との事。

30分で語る建築士と建築家、設計と工事監理。それで中学生の将来の職業選択肢の一つとして挙げてもらえるのか、う〜ん…

講和をする時いつも悩むのは、この仕事の楽しさ面白さを伝えるのか、それとも厳しき辛さの現実的な事を伝えるかだ。結局、厳しき辛さは何の職業でもある事、それは社会に出れば経験する事である。なので、私が同じ時代に思い描いた建築家と言う憧れの職業を、彼等に自分の言葉で伝えられればとの結論に至る。

当日持参した物は、模型、写真パネル、図面製本。これは私の中では「三種の神器」に当たる。言葉と説明だけでは、なかなか伝わらない経緯もあり、二回目からは神器に加えた物である。

上手く言えたとか伝わったのかは、後日頂ける生徒達からの感想文でわかる。

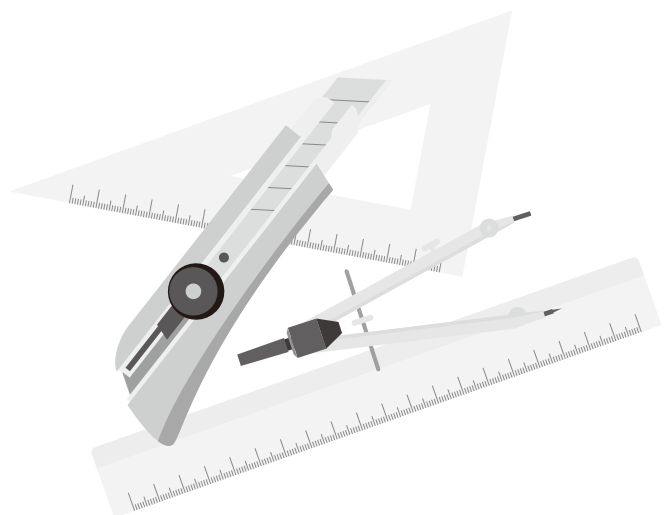
実はそれが楽しみで、引受けるといっても過言で

は無いくらいなのだ。

今回の講和では、二講和で33名の男女だった。その感想文では、前回もそうだったようにどれもウルッと来る内容だった。

33名の内、約10名が「将来自分も建築士の資格を取って、建築家になりたいと思いました」と書いてあったのである…

それが今回の講和の、私への答えであった。



BOOK My Best Book

マイベストブック

『心に効く名言・名セリフ』 著:岡崎武志

豊後大野支部 佐藤 勤也

ご紹介本は岡崎武志著「読書で見つけた『心に効く名言・名セリフ』」です。

大分フォーラスが改装の為移って入り易くなった金池のジュンク堂書店でした。

この手の本は普段は敬遠するのですが、女優で作家の中江有里さんのおすすめの本だったので興味を惹かれ手に取り、以前読んだ中勘助の「銀の匙」が目につきページを捲ったところでした。

出典は勿論、登場人物の生い立ちも記されブックガイド的な側面を持っています。

読みたい本がいくつか見つかりましたが、その中で気に入った言葉を紹介します。

★幸福とは報酬を求めなかった人々の所へ来る報酬なのだ

フランスの哲学者アランの言葉

★すぐ役立つことは、すぐ役立たなくなります

灘校の国語教師橋本武先生の言葉

中勘助の「銀の匙」一冊で3年間国語を教え、灘高校の名を知らしめた

「国語は『学ぶ力の背骨』なんです」とも言う

★手放して初めてそれに気付くことが出来る

ネルケ無方(ドイツ出身)「迷える者の禅修行」より

★使ってりゃ錆びねえよ

石工の棟梁

一つの事を長く真剣にやっていて、出て来る真実の言葉はいつも「あたりまえの事」だ

紹介者談〈体も頭も錆びついているなど自省しています〉

★誤解されない人間など、毒にも薬にもならない

小林秀雄「私の人生観」より

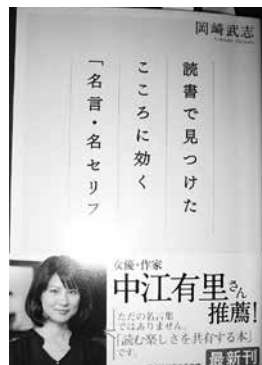
★なんびとも自分の持っていないものを失うことはできないからである

マルクス・アウレリウス「自省録」より

私は102ある名言の中で西暦121年に生まれたアウレリウスが戦乱の内憂外患の中で心を静かに収めるために綴った「自省録」が気に入っています。

彼はその時代に、貧しい女子を教育する施設を作り、負債を抱える市民に免責特権を与えた、考えるだけでなく、行動する政治家でもあった。

考えさせられるところが沢山ありそうです。



大分支部 松本 ひとみ

著者はSEとしてフルタイムで勤務する中で、週末に1週間分のおかずをまとめて作り置きするライフスタイルを開始した方です。そのレシピを記録したブログ『つくおき』が、共働き家庭を中心に大きな支持を集め、一躍注目のレシピブロガーとなりました。

数あるレシピ本の中で、なぜ私がこの本を購入しようと思ったかという、私も著者と同じようにフルタイムで働く公務員で、効率の良い家事をしたいと日々思っていたからです。

一般的なレシピ本は、各レシピについての材料と作り方が記載されているので、一品一品料理を作り、材料も余ってしまい、時間と材料のロスが多くなりがちです。『つくおき』は、1週間分の10品から15品のおかずを3時間程度でまとめて作るための、工程表と、材料を全て使い切るレシピが紹介されています。これらにより、時間と材料の節約にもつながります。

私は家族の健康を考え、毎日バランス良く栄養のある食事を心がけています。しかし仕事の繁忙期などはどうしても夕食の支度に時間をかけることが難しいため、簡単な炭水化物が多めのメニューに偏りがちでした。そんな時『つくおき』を活用し、夕食のメニューと組み合わせることで、野菜、肉、魚、海藻などバランスの良い食事を摂ることが出来るようになりました。一人暮らしの方、働く主婦(夫)の方におすすめの一冊です。

この著書は大変好評で現在第3弾まで発売されていますので、興味がある方はぜひ読んでみて下さい。

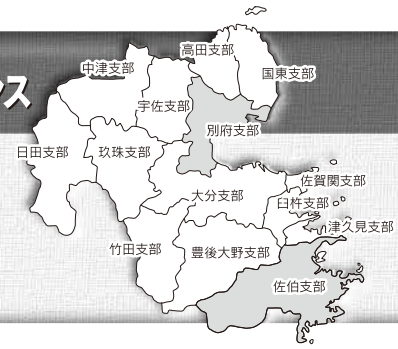


PERSONAL INFLUENCE パーソナルインフルエンス

個人が他人に及ぼす影響力

我が街の建築士紹介

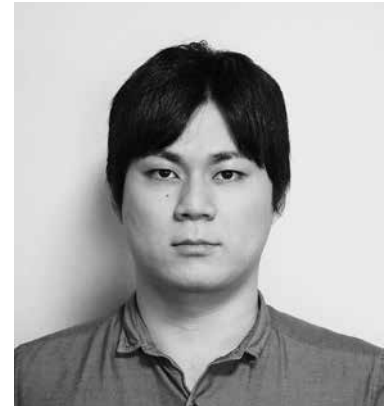
(掲載については順不同です)



- ★生 年 昭和63年生まれ
- ★勤 務 先 高瀬一級建築士事務所
- ★趣 味 カメラ・ビリヤード
- ★将来の夢、モットー等

こんにちは！佐伯支部の高瀬直紀です。

このたび、試験に合格し晴れて一級建築士となりました。佐伯市で四代続く設計事務所にて、父の指導のもと主に木造住宅の設計に携わっています。建築は勉強することが多く大変ではありますが、その分やりがいのある仕事だなと感じています。早く一人前の建築士として活躍できるように、これからも日々精進していきたいと思っています。よろしくお祈りします。



高瀬 直紀 (佐伯支部)

- ★生 年 昭和57年生まれ
- ★勤 務 先 別府市役所
- ★趣 味 映画鑑賞
- ★将来の夢、モットー等

別府市役所建設部施設整備課に勤めています。

職場の上司や先輩方から、会の活動内容やコミュニケーションの場として、様々な職種の方々と建築士という立場で繋がりができると聞き、入会する決意を致しました。

建築士会に所属されている皆様方との交流を図り幅広い知識や経験を学び、技術者として更なる努力をしていきたいと思っていますので宜しくお願い致します。



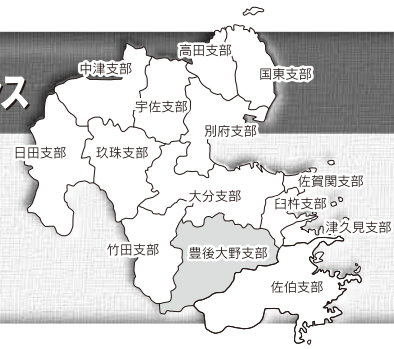
三ヶ尻 隆浩 (別府支部)

PERSONAL INFLUENCE パーソナルインフルエンス

個人が他人に及ぼす影響力

我が街の建築士紹介

(掲載については順不同です)



- ★生 年 昭和62年生まれ
- ★勤 務 先 (株)後藤建築設計事務所
- ★趣 味 ダーツ
- ★将来の夢、モットー等

豊後大野支部の伊東勇治と申します。

大分の日本文理大学を卒業し今の職場に勤め始めて8年目になります。

去年、建築士(二級)の資格を取り正式に正会員として建築士会に入会させていただきました。

現在は一級建築士の資格取得のため、設計事務所の業務をこなしながら勉強に励んでいます。

この業界、特に設計業務は資格があつて初めてお客様や建築に関わる人たちの信頼が得られる仕事だということを働きながら痛感しております。

また、資格だけあれば一人前というわけではないことも実感しております。

まだまだ未熟で学ぶべきことも多く、いろいろな経験を積み重ねなければなりません。信頼され、頼りにされる建築士を目指したいと思っております。



伊東 勇治 (豊後大野支部)



MY WORK

★建物名称 まちなみ修景 第2弾

★設計者 金田舞香

★施工者 金田建設有限会社

★設計趣旨

宇佐神宮勅使街道に面した旧店舗兼住宅で景観ガイドラインに従い改修を進めました。

以前店舗を経営していたということで、店舗部分がガラスサッシにシャッター付きと、修景としてシャッターを取り庇にすることで改修を進めていこうと考えていました。

しかし、施主様のシャッターは残してほしいとの意向で残すことになりました。如何にして残すかが、大きな課題となりました。施工者にも意見を頂きながらシャッターを庇下に隠すことにより、一部中連に腰板を配置することにより、落ち着いた感じで景観形成を行うことができました。





マーボアの旅先日記その7



会長 井上正文

島根県の国宝建造物を訪ねて

本年8月初めの猛暑の中、島根県を訪れる機会があり、3つの国宝建造物を見てきました。島根県を訪れるのは4年ぶり、この時の訪問は建築士会全国大会島根大会への参加のためでした。昨年の建築士会全国大会大分大会の3年前ということで、大会準備も兼ねた参加でした。この頃から大分大会の準備が本格化していったことが昨日のように思い出されます。読者の皆様の中にも島根大会に参加された方が数多くおられることと思います。



【松江城天守閣】

実は、この時点では島根県には2つの国宝建造物しか存在していませんでしたが、2年前の平成27年7月に新たに松江城が国宝の指定を受け、3つの国宝建造物が存在することとなりました。このことについては、すでにこのコラム（その4）の中で紹介した通りです。松江城にはこれまで度々訪れてはいましたが、国宝指定後には訪れていませんでした。自称「国宝建造物巡りマニア」を標榜する私としては、国宝指定後に訪れていないことは、心の中のわだかまりともなっていました。今回の島根県訪問には、他の用件もあったのですが、国宝指定後の松江城見学も旅の大きな目的でした。もちろん松江城天守の姿自体に変化は全くありませんが、国宝指定前とは回りの状況が一変していることに気が付きました。まずは松江の町中に「松江城」の表示が増

えており、しかもその表示には「国宝」の二文字が燦然と輝いていました。国宝になったことで、観光客もずいぶん増えたのではないかと思いますし、国宝指定の経済効果はかなりのものと推察しました。



【出雲大社本殿】

松江城以外の国宝建造物は、「出雲大社本殿」と「神魂（かもす）神社本殿」の2つです。出雲大社本殿は、平成20年から平成25年までの間、屋根の葺き替え工事が60年ぶりに行われ、現在はその工事も完全に終わっています。吹き替え工事中、2度ほど工事見学を目的にお邪魔して工事の詳細を見学させていただきました。

もうひとつの国宝「神魂神社」は、島根市内にありますが松江駅からバスで30分とアクセスが不便なこともあり、訪れる観光客も多いとはいえませんが、大社造の建築としては我が国最古の建築といわ



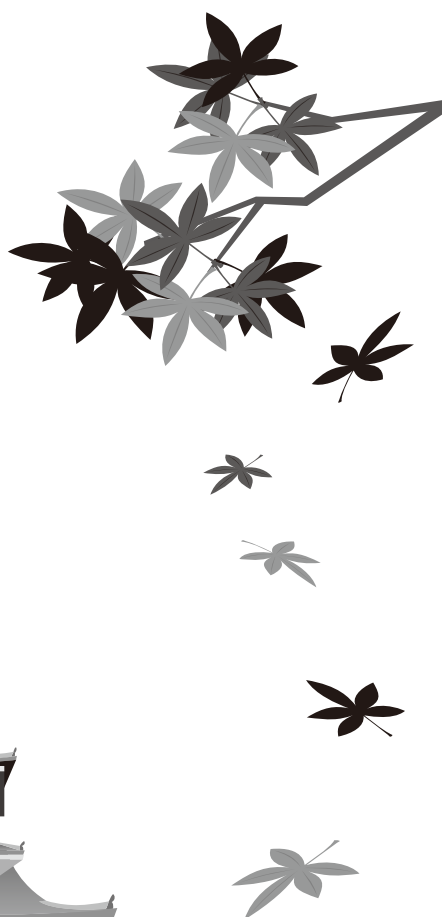
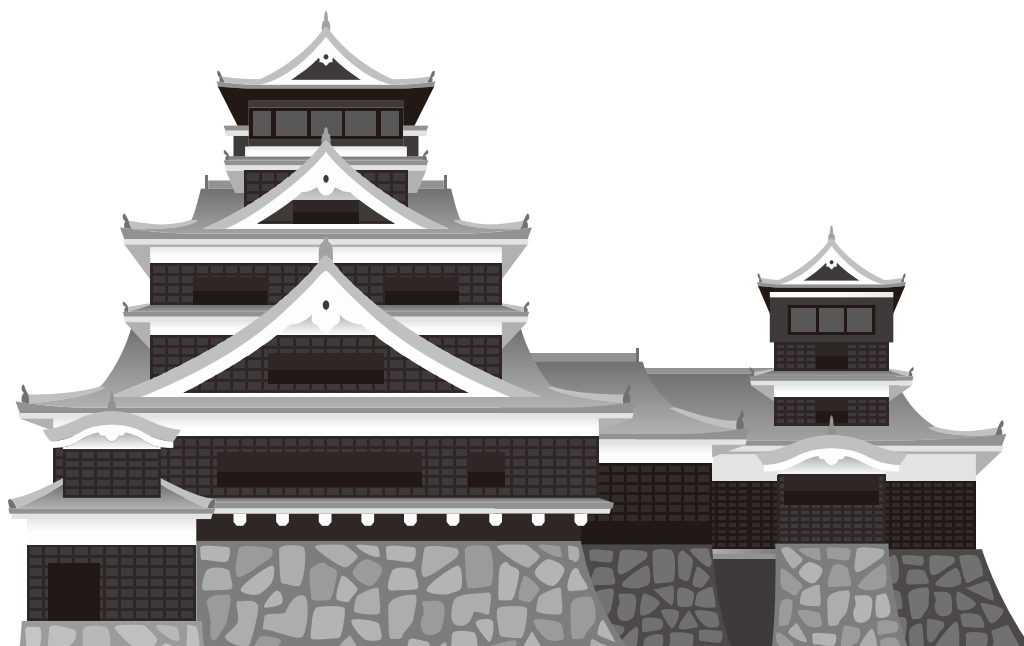
【神魂神社本殿】

れています。また、本殿の全景を目の当たりにできる点では、出雲大社本殿に比べ、建築物をより詳細に見学できます。また、ご覧になっていない方にはお勧めのスポットでもあります。

今回の島根県訪問では、島根県建築士会からの依頼で熊本地震の被害調査報告も講演会の形で行いました。講演会後の懇親会では、島根県出身の大分大学での教え子も駆けつけてくれました。彼女も当地の建築士会会員であり、女性部会での活動にも参加しているとのこと、教え子の活躍を耳にして嬉しくも楽しいひと時となりました。



【島根県建築士会との懇親会（右端は教え子）】





事務局だより

1. 委員会活動報告について（今後の予定）

総務委員会	会員増強月間として11月～12月にかけて各支部で集中的に取り組みます。
事業委員会	会員の福利厚生事業として「支部対抗ボーリング大会」を10月に開催予定でしたが台風18号による津久見、佐伯の被災のため延期して後日実施することになりました。今後も会員の親睦を深める事業を企画していきます。
広報委員会	会員の情報発信と県民への情報提供のための「会員紹介コーナー」をHPに開設予定です。会員同士の情報共有のためのFBも検討しています。
防災委員会	罹災証明のための「被害認定調査」の研修会を9月27日(水)と10月11日(水)に開催しました。今後は「応急危険度判定」に係る研修を予定しています。
青年女性委員会	パッションからつながるKIZUNAを11月11日(土)に別府市で開催します。恒例の「建築セミナー」を2月頃に大分支部担当で予定しています。
調査研究委員会	日田市豆田地区の北部豪雨災害被災建築物の復旧調査支援活動を10月に実施しました。県南豪雨災害の被災建物調査支援も予定しています。
地域貢献まちづくり委員会	連合会、九州ブロックまちづくり委員会との連携した活動と複数の県内支部をまたがった「景観まちづくり」研修を予定しています。
昇降機等定期検査報告推進委員会	昇降機検査業務に資する研修会や来年度から新規に報告義務が発生する小荷物専用昇降機等への対応を検討していきます。

2. 講習会・研修会案内（11月）

監理技術者講習 （建設業法）	11月8日(水)、12月6日(水)、1月10日(水)、2月7日(水)、3月7日(水)に事務局会議室で開催します。
建築士定期講習 （建築士法）	11月8日(水)日田市、12月20日(水)大分市、3月20日(水)大分市で開催します。
総合図作成 ガイドライン講習	11月29日(水)に大分市アートプラザで開催します。建築・構造・設備工事相互の調整、建物の品質と生産性を高めるガイドライン講習会です。

3. 建築士学科試験結果について

- 7月2日に実施された2級建築士の大分県の学科試験結果は実受験者141名（全国19649名）で合格者は44名（全国7197名）、合格率は31.2%（全国36.6%）でした。
- 7月23日に実施された1級建築士の大分県の学科試験結果は実受験者136名（全国26923名）で合格者は23名（全国4946名）、合格率は16.9%（全国18.4%）でした。

4. 浄化槽法に係る県事務の中津市・由布市への委譲について

- 浄化槽法に基づく諸手続（設置届け、定期検査報告等）について、10月1日から県の権限が中津市と由布市に委譲されます。これまで保健所に提出していたものが中津市や由布市に提出することになります。詳しくは中津市上下水道部総務課、由布市環境課にお尋ね下さい。

5. 会務行事案内

- 第2回理事会を11月17日(金)15:00～大分市コンパルホール多目的ホールにて行います。

★★「総合図作成ガイドライン」解説講習会★★

建築士会CPD2単位講習

【趣旨】

総合図とは？ 日頃聞き慣れませんが「設計図書に記されている建築や設備、その他各種機能に関する情報を、より詳細かつ具体的に総合化した図面であり、ゼネコンやサブコンによる設計主旨の理解だけでなく、スムーズな施工図作成につなげることができる」とされています。建築物のものづくりに有効な手法であるものの、設計者、施工者によって、作成方法・表現方法・内容などにばらつきがあるため、(公社)日本建築士会連合会では、設計者と施工者の両方の意見を統合、調整し、当ガイドラインをまとめました。

本ガイドラインによって、発注者をはじめ多くの関係者の「総合図作成に対する認識」がさらに高まり、標準的な表現方法が定着し、さらに究極的な目標である建築物の品質向上・生産性の向上につながることを目的としたもので、ガイドラインの編集委員によるわかりやすい解説講習会です。

【日時】平成29年11月29日(水) 14:00～16:00

【会場】大分市 アートプラザ研修室

【定員】40名(定員になり次第締め切ります)

【講義内容・時間割】DVD講師による。建築士会CPD2単位講習。

14:00～	開会	
14:05～14:10	第1章 ガイドライン刊行の趣旨	嘉納成男 早稲田大学
14:10～14:45	第2章 建築生産における総合図の役割	清家正樹 三菱地所設計(株)
14:45～15:05	第3章 総合図作成の流れ	輿 尉 (株)日本設計
15:15～15:30	第4章 総合図作成の基本	浜田晃司 清水建設(株)
15:30～15:50	第5章 建築用途別総合図作成事例	荒木真也 鹿島建設(株)
15:50～16:00	第6章 展望と課題	橋本 晋 高砂熱学工業(株)
16:00～	閉会	

【受講料(テキスト代込み:公益社団法人日本建築士会連合会編集 A4版カラー149頁)】

建築士会会員(または行政職員) 4,000円 一般5,000円 ※当日会場受付でお支払いください。

【申込先】公益社団法人大分県建築士会 事務局あてに、11月21日(火)までに下記に記入して申込み下さい。

Tel 097-532-6607 FAX 097-532-6635 メール info@oita-shikai.or.jp

参加者氏名		
連絡先所属等		
電話又はFAX	TEL :	FAX :

広報委員

担当常務理事 〈大分〉 宮 崎 隆 博
委員 長 〈大分〉 後 藤 悟 悟
委員 員 〈大分〉 常 廣 竜 也
〈津久見〉 濱 野 一 明
〈日田〉 佐 藤 敏 孝
〈中津〉 佐 藤 博 昭

編集委員

担当常務理事 〈大分〉 亀 谷 芳 久
委員 長 〈高田〉 後 藤 憲 二
委員 員 〈大分〉 足 立 忠 明
〈大分〉 岐 部 和 久
〈大分〉 日 高 雄 介
〈大分〉 都 瑠 淳 一
〈別府〉 小 山 秀 輝
〈国東〉 野 田 忠 博
〈臼杵〉 佐 藤 暢 彦
〈津久見〉 山 本 忠 昭
〈佐伯〉 長 田 孝 治
〈佐伯〉 疋 田 寛 子
〈佐賀関〉 井 上 雅 順
〈豊後大野〉 佐 藤 勤 也
〈竹田〉 玉 田 智 憲
〈玖珠〉 白 地 泰 幸
〈日田〉 伊 藤 照 幸
〈中津〉 佐 藤 博 昭
〈宇佐〉 渡 邊 賢 一

建築士大分 2017.10 No. 119

(非売品)

平成29年10月25日 印刷

平成29年10月25日 発行

編集／発行所

公益社団法人

大分県建築士会

〒870-0045

大分市城崎町1-3-31 富士火災大分ビル3F

TEL 097-532-6607

FAX 097-532-6635

印刷所／いづみ印刷株式会社

大分市高江西1丁目4323番25号 TEL (097) 535-8655

建築士

おおいた

本・支部名	〒	事務局所在地	TEL
高田	879-0625	豊後高田市水取 334 番地 2	0978-22-2216
国東	873-0503	国東市国東町安国寺 718	0978-72-2887
別府	874-0907	別府市幸町 8-32 (株)ユウキ内	0977-22-1921
本部・大分	870-0045	大分市城崎町 1-3-31 富士火災大分ビル 3F	097-532-6607
佐賀関	879-2201	大分市佐賀関 4-3341-4 (株)セキ土建内	097-575-1120
臼杵	875-0082	臼杵市稲田中尾下 1000-1 (有)みえのブロック内	0972-63-6695
津久見	879-2436	津久見市上宮本町 6-22	0972-82-8806
佐伯	876-0833	佐伯市池船町 19-14	0972-23-6099
豊後大野	879-7131	豊後大野市三重町大字市場 2 区	0974-22-6606
竹田	878-0026	竹田市大字飛田川 1618-6	0974-62-3711
玖珠	879-4632	玖珠郡九重町松木 4415-2 藤原工務店内	0973-76-3999
日田	877-0025	日田市田島 1-7-43-1F 102 鈴木建築事務所内	0973-24-6022
中津	871-0024	中津市中央町 1-5-24 中津建築会館内	0979-24-3597
宇佐	879-0453	宇佐市上田 931-3 宇佐建設会館内	0978-33-3395
本部	http://www.oita-shikai.or.jp/		

会員増強にご協力を！

～会員二人で、一人の入会勧誘を～



公益社団法人 大分県建築士会

2017 NO 119